
輪廻ノ砂時計

鈴夜 音猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

輪廻ノ砂時計

【Nコード】

N6281Q

【作者名】

鈴夜 音猫

【あらすじ】

sound horizonの同タイトルの楽曲を元にしています。

さらさらと下へ落ちていく砂。こぼれ落ちる砂は幾分も狂うことなく、着実にその世界の終わりへの時を刻む。

それが全て落ちきった時、私の世界は終わりを告げるのだ。

今は美しく咲き誇る花さえも、いつかは朽ち果て砂と化す。それは静かなる終わりの唄。

星屑のように煌めく砂の一粒一粒が私の記憶^{おもいで}。小さいけれど、確かに眩く輝いていた人生^{とき}の欠片。

さらさらとこぼれ落ちる私の砂時計は、あと残り僅かな時を終わりにへと導いていく。

苦痛に苛まれる身体。もう自由はきかない。

もしこの世に神が存在し得るなら、痛みを全て受け入れよう。けれどせめて願いを聞いて欲しい。

最期の時は、始まりの朝の光の中で迎えたい。真夜中に逝くのは寂しいから。

そして愛しい人の腕の中で、新しい訪れの息吹を感じながら逝きたいと願う。

それなら私は、笑いながら最期の瞬間を迎えられる。

私が愛した世界で。私が愛した人の温もりの中で、笑って逝くから。

だからどうか、私が生きていたことを忘れないで。

そしていつか砂時計が反転した時には、もう一度、私はあなたを
愛したいと願う。

【End】

（後書き）

ここまでお読みいただきありがとうございます。

あらずじ部分に書きましたが、この小説は sound horizon というアーティスト（？）の楽曲を元にしています。（以前にも違う曲をしました）

サンホラーならご承知でしょうが、楽曲に乗っ取ってはいますが、解釈は人それぞれです。その点はご了承くださいますようお願いいたします。

あんまり小説とは言い難いですが、ネタに詰まったらまたやるかもです。すみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6281q/>

輪廻ノ砂時計

2011年2月7日07時55分発行